

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年11月1日発行(毎月一回1日発行)第815号



出会い・本・人

人生の旅の同行者に感謝!

津村春英

特集シリーズこの三冊!

「日本人ファースト」を知るためのこの三冊!

前田 朗

本・批評と紹介

C・ヴェスターマン、F・アーヒウス著／J・ヴェーネルト協力／吉田 忍訳

聖書の基礎知識 前川 裕

小島誠志著 信仰の旅路 沢 知恵

大野恵正著 私が出会った人々 藤井清邦

小林重昭著 「三要文」講解 石田聖実

F・M・ヤング著／関川泰寛、本城仰太訳 ギリシア教父の世界 土井健司

正田倫顕著 ゴッホの宇宙 島園 進

近藤勝彦著 日本キリスト教神学小史 森島 豊

エラスムス・ルター著／竹原創一訳・解説

デシデリウス・エラスムス『自由意志について、評論あるいは比較検討』×マルティン・ルター『奴隸的意志について』 木村あすか

岩本遠億著 ほんとうの自分に会おうとき 久保木聡

大貫 隆著 福音書の隠れた難所 新免 貢

◆ 近刊情報

◆ 書店案内

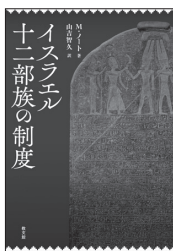
教文館創業140年
記念限定復刊！



ギリシア語新約聖書釈義事典〔全巻セット縮刷版〕
H・バルツ、G・シュナイダー〔編〕 荒井 猷、H・J・マルクス〔監修〕
新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類なき事典として、刊行以来多くの方々にご愛用いただいていたロングセラーを小型化・軽量化。

●A5判・1788頁・定価69,300円

●四六判・278頁・定価2,970円



王国成立以前のイスラエル社会を部族同盟による集団として説明し、20世紀の旧約聖書学に大きな影響を与えたアンフイクトオニ―仮説。その理論を確立した古典的名著がついに邦訳！ 仮説の研究史をたどる訳者解説を付した、古代イスラエル史研究の必読書。

●四六判・266頁・定価2,420円

イスラエル十二部族の制度
M・ノート〔著〕 山吉智久〔訳〕
旧約聖書学の古典、待望の邦訳！



ウエストミンスター信仰規準
日本キリスト改革派教会公認訳
神の栄光をたたえ、永遠に神を喜ぶ信仰を！

「穩健カルヴァン主義」に立ち、「契約神学」を神学的枠組みとして作成された「ウエストミンスター信仰告白」と、それに基づく教理教育のために編まれた「大教理問答」と「小教理問答」。17世紀の英国で成立して以来、ピューリタンの信仰と靈性の結実として、時代・地域を越えて広く用いられてきた三文書を、正確な日本語に翻訳した決定版！



出会い

本

人



人生の旅の同行者に感謝！

津村春英

朝日新聞に連載されていた夏目漱石の『行人』は、漱石自身が胃潰瘍のため、大阪の病院に入院し中断する。その病院の院長は、日本人初のノーベル物理学賞受賞者、湯川秀樹の義父であり、義母は私の曾祖母と従姉妹である。そういう縁で、私は社会人となって、氏の『旅人―ある物理学者の回想』（角川文庫、一九六〇年初版）を入手し、熟

読した。書中の表現を借りると、孤独な旅人に助け合って歩む道連れが与えられたこと、朝永振一郎というすぐれた同行者や物理学の勉強を可能ならしめた同行者を得たことへの感謝の言葉が特に印象に残った。

私の最も近くにおいて苦楽を共にしてくれた同行者は、妻であり四人の子どもたちであるが、今日まで多くの同行者を与えられたことに感謝している。これらの人々に出会わなければ、私は違った道を歩んでいたと思う。電気工学を専攻した学生時代にアメリカ人宣教師夫人のバイブルクラ

スに誘われ、初めて聖書にふれ、御坊バプテスト教会で受洗した。とくに、藤井力牧師からキリスト者としての的確な方向づけをいただいた。また、内村鑑三の「余は人の救いなるものは、聖書の研究と離るべからざる関係をもつものであると信じる。」（『一日一生』）との言葉に感銘を受けた。これは後の私の聖書学研究につながる。

大阪に出て十三年間、産業界で働いた後、御言葉を与えられて献身したが、牧師と並行して、さらに学びを深め、三十有余年、神学教師として歩んだ。また、現在の教会に着任して四〇年このかた、幾度も挫折を経験したが、同行者である教会の兄姉に支えられてきた。とりわけ、コロナ禍により礼拝出席者が激減した会堂の中にも、主の臨在を感じている。これからも、人生のかけがいのない同行者に感謝しつつ、旅を続けたい。

（つむら・はるひで＝大阪日本橋キリスト教会牧師）



▼シリーズ この三冊！

「日本人ファースト」を知るための この三冊！

前田 朗

(まえだ・あきら…東京造形大学名誉教授)

トランプ大統領による「アメリカ・ファースト」が世界に分断と差別をもたらしています。世界を支配した超大国の地位から経済的に転落する危機感から、政治経済的にも軍事的にも支配力を維持しようとして掲げたスローガンです。「力こそ正義」という信念が異様に肥大化していきます。

アメリカは白人中心主義による黒人差別が根深く、人種民族の分断が激しい社会です。アメリカ・ファーストは「アメリカ」をまとめるように見えて、実際は

「白人ファースト、黒人セカンド、移民ラスト」の枠組みを固定化させます。多様性が否定され、「黒人の命も大事」と唱えたブラック・ライヴズ・マター（BLM）運動は攻撃対象となります。LGBT等のマイノリティも否認されます。白人主導の偉大なアメリカが喧伝されます。

「日本人ファースト」はアメリカ・ファーストの借用ですが、新しい現象ではなく、大日本帝国以来、日本はずっと日本人ファーストでした。大東亜共栄圏

の柱となった「五族協和」とは、「大東亜の盟主＝日本」によるアジア支配でした。

大東亜共栄圏の妄想が崩壊した後、日本国憲法が平和主義や民主主義や基本的人権という「普遍的価値」を掲げました。しかし同時に、象徴天皇制や「国民主権」といった日本主義が大前提とされました。その下で、外国人登録法による朝鮮人差別と外国人排斥は続き、ずっと日本人ファーストでした。

今あらためて日本人ファーストが人々を鼓舞しているのは、アメリカと同様に日本も転落の危機にあえいでいるからです。かつて世界第二位を誇った経済力は二〇位以下に低迷しています。「失われた一〇年」から「失われた三〇年」への没落帝国で物価高と低賃金の人々の不満を募らせています。

明治維新以来一〇〇年以上右肩上がりだった人口は、高度経済成長期に急増し

ました。ところが二〇〇〇年代から減少に転じ、その度合いが著しく進行しています。人類史上例のない「爆縮」とまで言われています。一億三〇〇〇万人だった人口が二〇五〇年には八〇〇〇万人に

激減するとの予測に誰もが怯えています。

日本人ファーストは新しい現象を装っています。しかし、実態は政治的にも経済的にも軍事的にもアメリカに追随し、付き従うだけです。「アメリカ・ファースト、日本セカンド、それ以外の諸国ラスト」という階層秩序が固定されます。

これは「脱亜入欧・脱亜入米」の焼き直しにすぎません。過去の植民地主義や人種民族差別の歴史を反省しないまま、新たに民族排外主義に火がついているので、非常に深刻です。

この現象を理解するためには、第一に植民地主義と人種民族差別（奴隸制、アバルトヘイト、欧米中心主義）の世界的動向、第二に日本植民地主義の歴史（大

日本帝国の戦争と植民地支配、日本国憲法の日本主義）、第三に現在の日本の民族排外主義の要因を踏まえて、目の前の差別やヘイト・スピーチを見ていく必要があります。

植民地主義や人種民族差別については、非常に重要な著作が膨大にあります。三冊を選ぶのは至難の業です。日本における植民地主義の暴力性についても批判的研究は多数あります。

第一に、植民地主義と人種民族差別の世界的動向を明快に論じているのが、① **平野千果子『人種主義の歴史』**（岩波新書、二〇二二年）です。ヘイト・クライムやヘイト・スピーチをはじめとする現代の差別の根底には、ナショナリズム、植民地主義、反ユダヤ主義等と結びついた人種主義（レイシズム）があり、世界に計りしれぬ惨禍をもたらしました。大

航海時代から今日に至るまで、そのイデオロギーと実態を世界的視座から説く

入門書です。

植民地主義や人種主義に関連する古典として、フランツ・ファノン『地に呪われた者』（みすず書房、一九六九年）、『黒い皮膚・白い仮面』（みすず書房、一九七〇年）、海老坂武『フランツ・ファノン』（みすず書房、二〇〇六年）、サルトル『植民地の問題』（人文書院、二〇〇〇年）、ジョージ・フレドリックソン『人種主義の歴史』（みすず書房、二〇〇九年）など必読書がたくさんあります。

近年の重要文献としては、オレリア・ミシェル『黒人と白人の世界史——「人種」はいかにつくられてきたか』（明石書店、二〇二一年）、ロビン・ディアンジェロ『ホワイト・フラジリティ——私たちはなぜレイシズムに向き合えないのか?』（明石書店、二〇二一年）も注目されます。

第二に、日本植民地主義の歴史について、大日本帝国による植民地支配と、植

民地主義の反省がない日本の現在を分析

他方、尹健次『孤絶の歴史意識——日

体制による外国人の排除と抑圧が徹底し

してきたのは在日朝鮮人の知識人たちです。②徐京植『植民地主義の暴力——

本国家と日本人』（岩波書店、一九九〇年）、同『民族幻想の蹉跌——日本人の

政策の不在が特徴でした。アイヌ民族や在日朝鮮人の存在を不可視にした法体制

「ことばの檻」から』（高文研、二〇一〇

自己像』（岩波書店、一九九四年）、同

が「日本には日本人しかいない」「日本

年）は、戦争と植民地支配下の重大人権侵害（日本軍性奴隷制、強制連行強制労働問題等々）の歴史を否認して、戦争責任・植民地支配責任を否定する日本政治

『日本国民論——近代日本のアイデンティティ』（筑摩書店、一九九七年）は

には人種差別はない」という虚偽言説を可能にしました。それ自体が強烈な自民族中心主義であるにもかかわらず、日本

と社会の「暴力性」を厳しく批判しました。単に過去の問題ではなく、在日朝鮮人に対する差別と人権侵害が再生産されています。

日本人知識人による問題提起としては、中野敏男『継続する植民地主義の思想史』（青土社、二〇二四年）が重要です。

ポストコロニアリズムを「継続する植民地主義」として把握し直し、日本が抱える問題を摘出します。

徐京植『半難民の位置から——戦後責任論争と在日朝鮮人』（影書房、二〇〇二年）、同『ディアスポラ紀行——追放された者のまなざし』（岩波新書、二〇〇五年）も在日朝鮮人の視点からの日本社会論です。徐の議論の全体像を多角的に論じたのが、早尾貴紀・李杏理・戸邊秀明編『徐京植——回想と対話』（高文研、二〇二〇年）です。

第三に現在の日本の民族排外主義について、③梁英聖『レイシズムとは何か』（ちくま新書、二〇二〇年）はコンパクトに、かつ鋭く批判的分析を加えています。梁によると、日本は人種民族政策や移民政策を持たない特殊なレイシズムを培養しました。外国人登録法と入国管理

義を浮き彫りにしています。

河合優子『日本人の人種主義——トラン

スナショナルな視点からの入門書』（青

弓社、二〇二三年）は、欧米と日本の歴史的・社会的な背景や基本的な知識を踏まえて、差別、偏見とステレオタイプ、アイデンティティなどの視点から、人々の日常的な意識や振る舞いに潜む人種主義を浮き彫りにしています。

河合優子『日本人の人種主義——トラン

スナショナルな視点からの入門書』（青

弓社、二〇二三年）は、欧米と日本の歴史的・社会的な背景や基本的な知識を踏まえて、差別、偏見とステレオタイプ、アイデンティティなどの視点から、人々の日常的な意識や振る舞いに潜む人種主義を浮き彫りにしています。

河合優子『日本人の人種主義——トラン

スナショナルな視点からの入門書』（青

弓社、二〇二三年）は、欧米と日本の歴史的・社会的な背景や基本的な知識を踏まえて、差別、偏見とステレオタイプ、アイデンティティなどの視点から、人々の日常的な意識や振る舞いに潜む人種主義を浮き彫りにしています。

河合優子『日本人の人種主義——トラン

スナショナルな視点からの入門書』（青

弓社、二〇二三年）は、欧米と日本の歴史的・社会的な背景や基本的な知識を踏まえて、差別、偏見とステレオタイプ、アイデンティティなどの視点から、人々の日常的な意識や振る舞いに潜む人種主義を浮き彫りにしています。

河合優子『日本人の人種主義——トラン

スナショナルな視点からの入門書』（青

弓社、二〇二三年）は、欧米と日本の歴史的・社会的な背景や基本的な知識を踏まえて、差別、偏見とステレオタイプ、アイデンティティなどの視点から、人々の日常的な意識や振る舞いに潜む人種主義を浮き彫りにしています。

河合優子『日本人の人種主義——トラン

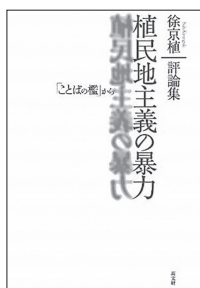
スナショナルな視点からの入門書』（青

弓社、二〇二三年）は、欧米と日本の歴史的・社会的な背景や基本的な知識を踏まえて、差別、偏見とステレオタイプ、アイデンティティなどの視点から、人々の日常的な意識や振る舞いに潜む人種主義を浮き彫りにしています。



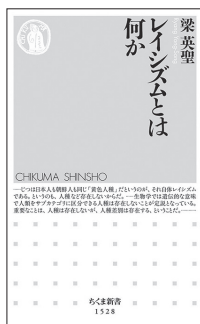
『人種主義の歴史』

平野千果子：著
岩波書店
2022 年
新書判
270 頁
1,034 円



『植民地主義の暴力 ——「ことばの檻」から』

徐京植：著
高文研
2010 年
四六判
320 頁
3,300 円



『レイシズムとは何か』

梁英聖：著
筑摩書房
2020 年
新書判
320 頁
1,155 円

レイシズムの具体化としてのヘイト・スピーチについては、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』（岩波新書、二〇一三年）、金尚均『差別表現の法的規制——排除社会へのプレリウドとしてのヘイト・スピーチ』（法律文化社、二〇一七年）、前田朗『ヘイト・スピーチ法研究序説——差別煽動犯罪の刑法学』（三二書房、二〇一五年）、同『ヘイト・

スピーチ法研究原論——ヘイト・スピーチを受けない権利』（三二書房、二〇一九年）、同『ヘイト・スピーチ法研究要綱——反差別の刑法学』（三二書房、二〇二一年）があります。
「普遍的価値」に反する皮相な日本人ファーストですが、歴史的にも現実的にも一定の「根拠」に根差しています。転落の危機が切迫している現実に直面した

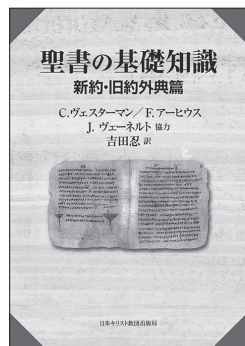
恐怖と憎悪から、他者を排除し攻撃します。憎悪の政治学が作動し、他者を侮辱することで自尊心を維持したつもりになります。それゆえ社会から民主主義も多様性も失われます。対話も寛容も抑圧されます。こうして社会が壊れていきます。そこでは自己への尊重も消失するしかありません。日本人ファーストは最終的に日本を破壊する病理現象なのです。

聖書の学びの「第一歩」へ

〈評者〉 前川 裕

本書の原著はもと旧約・新約聖書全体として一九八二年に刊行されたものである。邦訳は旧約部分のみが出版されていた（左近淑・大野恵正訳『聖書の基礎知識 旧約篇』、日本キリスト教団出版局、一九八四年／改訂新版二〇一三年）。評者は原著を所持しており、新約部分についても邦訳が出ることを待ち望んでいた。旧約部分の訳書出版から四〇年を経て、新約部分が出版されたことはたいへん喜ばしい。

本書の原著を刊行しているカルヴェル出版社は一九〇年以上の歴史を持つドイツの老舗神学系出版社であり、学術的かつ実用的な書籍を制作している。本書も標準的な学説を踏まえつつ、コンパクトに各文書が概説されている。しかし、それぞれの文書がバラバラに扱われるというわけではない。「聖書は、終始一貫して、ナザレのイエスに關す



聖書の基礎知識

新約・旧約外典篇

C・ヴェスターマン、

F・アーヒウス著

J・ヴェーネルト協力

吉田 忍訳

る知らせをその中心とする、壮大にして多様かつ多岐にわたる歴史を告げる」（序、四頁）のであり、「個々の聖句は、この全体のつながりの中で、そしてその中心に対する関係の中でのみ、正しく聴きとることができる」（同）という基本的立場に立った解説がなされている。この点からは、『旧約篇』と併読することが強く望まれるだろう。

本書では、しばしば各文書の構造が図によって提示される。たとえば共観福音書の構造が三書並べて比較される（一九頁）。これによって、文字のみで説明するよりも福音書同士の対応関係がよく分かるようになっていく。また各章の箱の大きさを変えたり（たとえば一テモテ書、一五八頁）、入れ子構造にしたりする（一テサロニケ書、一五二頁）ことで、どこが（著者の考える）重要な部分であるかが一目瞭然となっている。



さらに、重要なテーマにはコラムが設けられている。たとえば「マタイによる福音書における旧約引用」(二三頁)、「ヨハネによる福音書における7つの『わたしは……である』言葉」(七三頁)、「コリントにおけるパウロの敵対者」(二二七頁)などがあり、いくつかの章にわたる話題をまとめて読むことができるのは便利である。

原著では旧約・(旧約)外典(いわゆる「旧約聖書続編」を含む)・新約の順であるが、本訳書では新約を先にし、その後に(旧約)外典について紹介している。それぞれの文書の説明はごく短いものであるが、「歴史的・伝説的説話」「説話形式の教え」「説教形式の教え」「詩書」「黙示書」といったグループピングがなされており、各文書の性格を把握するために有用であろう。新約外典については一頁

のみの紹介で、ここはもう少し詳しく紹介してほしい。また「訳者あとがき」では基本的な日本語文献が多数紹介されており、訳者に感謝したい。

基礎知識を提供する本書は、「聖書にむかって第一歩を踏み出させるもの」(序、五頁)であり、そこから聖書に親しみ、一人で学ぶことができるようになれば「この聖書の手引きは、そこで身をひくことになる」(同)と著者は記している。本書は聖書の学びが進んでからも、全体を俯瞰するために常に立ち戻るべき有益な書である。本書「旧約篇」「新約篇」と共に、「第一歩」を踏み出してはいいかどうか。

(まえかわ・ゆたか)関西学院大学理学部准教授
(A5判・二三四頁・定価四四〇〇円・日本キリスト教団出版局)

まぶねのかたえに 祈りのクリスマス・カレンダー

小島誠志 編 小林恵 写真



『信徒の友』掲載の祈りから25日分を精選した写真付き祈り集。写真はヨーロッパのクリスマス風景やキリスト誕生場面の人形飾りなどを収める。フルカラー。
A5判変型並製・64頁・定価1540円

星に導かれて 待降・降誕・公現

日本キリスト教団出版局 編



執筆者のクリスマスの思い出と重ねて語られるショートメッセージ集。『信徒の友』『こころの友』に掲載された多様な執筆者たちによる記事から厳選。
四六判並製・112頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eligyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

生きる希望をやさしく 力強く語りかける

〈評者〉 沢 知恵



信仰の旅路

伝道メッセージ集

小島誠志著



「おじませいし」と読みます。「こじませいし」ではありません。まちがえずに読めるようになるまで、私は少ししかかりました。一筋縄ではないかない牧師らしいお名前と思います。

一九四〇年生まれで、四国にある日本基督教団のおもに四つの教会につかえ、二〇二五年三月に隠退されました。教団の総会議長を三期つとめたご経験もお持ちです。他の教派では「隠退」ではなく「引退」というようです。小島誠志さんは、責任ある教会の牧者としての役割から引きまされたが、隠れる気配はなく、いまでも精力的に各地で神さまのみことばを語っていらつしやいます。この本は、そんな節目に発行された集大成ともいえる説教集です。

小難しいことはいっさいなし。「まえがき」に「わかりやすい説教を心がけています」とあるように、ことばがほ

んとくにわかりやすい。誤解をおそれずにいえば、お寺の住職の説法のような親しみをおぼえます。わかりやすく親しみやすいけれど、軽くはありません。語られた説教がそのまま文章になっていることもあり、ひとつひとつのメッセージが力強く、ずっしりと心に響きます。

取り上げている聖書の箇所がいい。旧約聖書は創世記、出エジプト記、ヨブ記、ヨナ書から、新約聖書は福音書を中心に、キリスト教入門編ともいえる内容です。通底しているのは、信仰とは何かということ、そして、苦難の多い人生をいかに生きるのかということです。

すべてを失ったヨブに重ね合わせて、私たちは歳を重ねながら、「何かを失うことによって何かを得ていく」「失わなければわからないことが、次第にわかってくる」といいます。

「荷物を背負って生きているということが無駄になることは決してありません」。意味のわからない労苦でも、イエスが婚宴で水をぶどう酒に変えたように、思いがけないことが起きるのが人生である。

隠退なさる旨のハガキをいただいて、私はすぐさま電話をかけました。「先生、もう大島には来てくれないということですか？」香川県の高松港から船で二十分のところにあるハンセン病療養所、大島青松園の教会、霊交会に、年に一回説教に来てくださっていたのが、もうおしまいになると思ったのです。「いやいや、それは別」との即答をきいて安心しました。若いときに家族で通った療養所に、老牧師は、生涯の牧会をともにしたお連れ合いの百合子さんを伴い、腰に手ぬぐいを下げ、カバンにハーモニカを携え

て来てくださいます。終わりゆく療養所の教会で二度涙された理由は、この本を読んでよくわかりました。

「信仰者にとって苦難というのは、いつも希望への入り口なんです。行き詰まりと思った苦難が、主と共に歩む時に思いがけない形で希望への入り口になる」。

私はこの本を、キリスト教について素朴な疑問でいっぱい求道者の友人にプレゼントするつもりです。友人は戸惑うでしょう。一章に「アブラム」が、二章に「アブラハム」が出てきます。同じ人？ 説明が付されていないのは不親切？ いいえ。自分で聖書を開いて確かめてもらなさい、という導きに他なりません。まいりました。

（さわ・ともえ＝歌手・岡山大学非常勤講師、ハンセン病療養所の音楽文化研究）

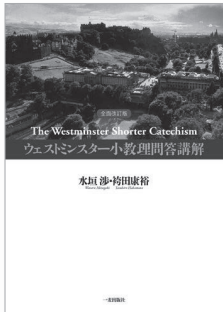
（四六判・二〇〇頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局）



ウェストミンスター 小教理問答講解

全面改訂版

水垣渉+袴田康裕*著
MIZUGAKI Wataru HAKAMATA Yashuhiro



小教理の言葉の意味と、
問答内容のかみくだいた説明は、
たんなる解説に留まらず、
豊かなメッセージに満ちている。
小教理を魂の対話相手として、
教会の信仰を身につけたい。

A5判・上製
定価 2,860 [本体 2,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-171-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

《出会い》という 恵みの証言

〈評者〉 藤井清邦



私が出会った人々

神の庭にて

大野恵正著



尊敬する牧師であり、神学者である大野恵正先生から、新著『私が出会った人々——神の庭にて』をお送り頂いた。この本には、先生が出会われた三〇名を超す方々について記されている。そこには、私の存じ上げている方もおられれば、存じ上げない方もおられるが、そのお一人お一人に親しく出会ったかのような思いを覚えながら読み進めた。

さて、親子ほど歳の離れた私が、大野恵正先生に出会ったのは、私が長崎古町教会に赴任した二〇一一年二月のことである。先生は、誰も知り合いのいない地に赴いた私と家族を、温厚な笑みをもって手を差し伸べ、温かく迎えてくださった。

大野恵正先生は、長野県町教会、伊東教会、浜松教会での牧会を経て、活水女子大学の教授を長年にわたってお務めになり、新共同訳聖書旧約部門翻訳委員、西南学院神学

部非常勤講師などの要職を歴任された。多忙を極めておられた先生のご労苦は、察するに余りあるが、毎週日曜日には、長崎古町教会の礼拝に身を置き、常に神の御言葉と礼拝を源泉とされた。また、出会われた方々を大切にし、毎日、多くの方々を覚えて祈り続けておられた。先輩牧師の信仰の姿を見せて頂いた。

大野恵正先生と云えば、二〇一三年以降、新教出版社からシリーズで出版され、好評を得ている『旧約聖書入門』がある。旧約に示された神の恵みの豊かさ、その奥深さに触れることができる秀逸な旧約入門書である。先生の著書の魅力は、優れた講解のみならず、そこにイエス・キリストと神の愛が、はつきりと示されていることにある。

この度の新著は、人物を紹介した書物であるが、人物伝や伝記の類ではないと言えよう。そこに記されている方の

生き様、生涯を通して、イエス・キリストと神の愛が浮かび上がってくる。また、信仰の目をもって見つめた時に見える、主に生かされた命の輝きと、神が与えてくださる出会いの素晴らしさに気づかされる。

この度の著書の冒頭に、次のようにある。その言葉は、著者である大野恵正先生の信仰と、この本の趣旨をよく示すものであると思う。

「私という人間は、私ひとりによる自己形成の結果などではなく、人生の道々で出会った数々の人々との触れ合いの中で形づくられたものである。……そのような出会いを計らったのは私には神を除いては考えることができない。したがって、私にとってその人々との出会いは決定的に神学的意味を持つ」（「まえがき」より引用）

この本の最後に記されているのは、ご伴侶である大野佳子さんのことである。佳子さんもまた、信仰の人である。そして、お二人の出会いと、共に歩んでこられた日々が、神の恵みを証ししている。

この本を読み終えた時に、一つの思いがあった。それは、大野恵正先生に数々の出会いを備えたもう神は、私たちに多くの出会いを与え、その一人一人の存在を通して、何と豊かな励ましと慰めを与えて下さっているかということである。

ぜひ、多くの方に、この書物を手に取って頂きたい。

（ふじい・きよくに）日本基督教団聖ヶ丘教会牧師
（四六判・一九〇頁・定価一九八〇円・新教出版社）

ヨベルの新刊 / 近刊案内



意味は待つことにある

ポーラ・グッダー〔著〕中原康貴訳 アドベントのころ

反響

即時性が当たり前という今の時代に「待つ」といかなることなのか。教会暦に刻まれたアドベント（待降節）という待ち望みの期間を、聖書の登場人物たちの生き様によって迎える。過去を待つ、現在を待つ、そして未来を待つという、人間に備えられている多層的な資質を呼び覚ましてくれる最高のアドベント読本。四六判・一六八頁・一八七〇円



私を遣わしてください

ポーラ・グッダー〔著〕中原康貴訳 レントのころ

姉妹篇

異世界だが親しみがあがり、人を寄せ付けながらも人々を惹きつけ、生気はないけれども生命を与えてくれる。レント（受難週）は、私たちが二面的な荒れ野に足を踏み入れるように招いている——レントの精神を解き明かす教会暦手引書の第2弾。11月刊行予定 四六判・二〇〇頁・一八七〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈（税込）

教会と人々への愛からなされた貴重な講解

〈評者〉 石田聖実

小林重昭



「三要文」講解
十戒・主の祈り・使徒信条

「三要文」講解

十戒・主の祈り・使徒信条

小林重昭著



筆者は一九八〇年に結婚して府中市のアパートに住んだ。徒歩数分の教会に出席することになったが、その教会の牧師が小林重昭師で、一九八七年に先生が川崎に移られるまで家族ぐるみでお世話になった。最後にお会いしたのは、二〇一七年に東海聖化大会の講師として名古屋まで来てくださった時で、当時の東海聖化交友会の松浦会長が小林先生の人柄に惚れて、講師にお迎えすることを提案された。府中時代以来久しぶりに奏楽を担当させていただいた。

さて本題の説教集だが、十戒・主の祈り・使徒信条の講解を府中で一回、川崎で四回、都合五回もなさったとのこと。私が聞いたのはその最初の時だが、申し訳ないことに覚えていない。しかし本書の文章から先生が説教なさっているときのこやかな表情が浮かんでくる。そこには教会の人々、また地域の人々へ愛がある。

「十戒」というと厳しい戒律を連想する方もあるかもしれないが、最初の説教で「～してはならない」という命令的な言葉は、実は神の変わらぬ熱い愛から出ており「～するはずがない」と肯定的に受け止めることが語られる。

「盗んではならない」のところでは近所の文房具屋さんや万引に困っておられることから説きおこす。地域の人々との付き合いを大切にしておられた。実は私の職場が廃業ということになって仕事が無くなって困った時に、小林先生が府中市の挨拶運動で知り合った会社の社長に私を紹介して雇っていただけするようにしてくださった。十戒の説教はかなり厳しい内容も含まれるのだが、このような先生の温かさを聴衆は知っているので素直に聞くことができる。

「主の祈り」についての最初の説教では、神だけを意識できる場を作ることと、必要なことを知っておられる神を

信じて祈ることが語られる。三番目の説教「聖名を崇めさせ」。神の「名」を崇めるといふ少しわかりにくいことについて、モーセに対して示された「ありであるもの」、つまり存在の根源であり、行動される方であることが、神の名に表されており、その名を聖なるものとして他とは区別することだと説く。「御国が来ますように」では現在始まっている御国と再臨によってもたらされる御国の両者が語られるが、前者の中で「御国がきますようには、悔い改めの祈りである」という部分で、笹尾鉄三郎が罪を示され祈れなくなり心から悔い改めたとの故事に心が引き締まる。

「使徒信条」の説教の最初の部分には注目させられた。「日本の土壌は、仏教は家の宗教、神社は部落（ママ・ルビ）の宗教」であって「一人ひとりの主体的な告白、すな

わち『個人の信仰』となっていない」。使徒信条は「われは信ず」で始まり「われは信ず」で終わる。『わたし』という『個人』の『信仰的決断』が鍵となる。というのは日本でキリスト教がなかなか根付かない原因であると共に可能性をも示しているのではないだろうか。

十戒は旧約のモーセから、主の祈りは新約の主イエスから。対して使徒信条はその後の教会が時間をかけて正しい信仰を得る営みから生み出された。「聖なる公同教会」とそこに属する人々の生き方を明らかにすることは大事なかみだ。小林重昭先生がこの三文書を五回も説教されたのは、教会と人々への愛からだと思わされた。

（いしだ・きよみ 日本基督教団鈴鹿教会牧師）
（A5判・五〇〇頁、カラー口絵一丁・定価三〇八〇円・ヨベル）

芹野与幸「著」

かおりの宝庫を訪ねる

ヴォーリズの足跡に魅せられて



「米国より来たりて留まった」一柳米来留ことウィリアム・メレル・ヴォーリズ。著名な建築家のみならずキリスト教伝道の担い手でもあったその足跡を、妻一柳満喜子との絆を軸に多角的に照らし出す。近江兄弟社の広報誌「湖畔の声」連載記事を書解化。 四六判・三〇八頁・一九八〇円

小高夏期自由大学事務局編著「飯島信・小暮修也」
苦難の日々を心に刻み、明日は必ず来る
再生へ向かって歩む
原発被災地 小高

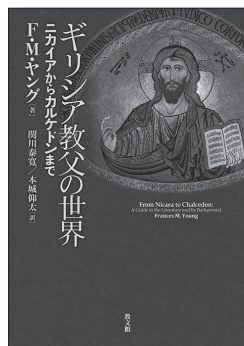


原発被災後、《新しい日常》を13年やってきたこの町になぜ人々は集まってくるのか。小高にはいったい何があるのか。《小》さくても志は《遙く》それが小高。パネルディスカッション、トークセッション、座談会で小高の今と未来を語り尽くした夏期自由大学、その熱気を紙上に再現。 新書判・二三六頁・一六五〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈（税込）

教父たちの思想と信仰を 伝える良質な入門書

〈評者〉 土井健司



ギリシア教父の世界

ニカイアからカルケドンまで

F・M・ヤング著

関川泰寛、本城仰太訳



キリスト者は聖書という文書を読み、同信の交わりを深め、そして祈りのうちに呼びかけ、感謝し、さまざまな思いをもって求めつつ日々を歩む。それは古代でも同様であって、「教父」と呼ばれる人びとは、誰にもまして聖書を読み、人びとと交わり、さらに祈る人であったといえる。この点を理解しないと「教父」などはただの過去の人になってしまう。今日の教父研究は、教理よりも、むしろこうした人びとの生き様とその生きた思想を明らかにする必要がある。資料は乏しくとも研究の蓄積は数百年にわたっており、今なお更新中である。ここに翻訳されたフランシス・ヤングの本は激動の四世紀から五世紀に生きたギリシア教父たちの歩みを学問的にしっかりとした仕方、かつ躍動感をもって概観している。

著者のヤングは現在バーミンガム大学の名誉教授であっ

て、新約学と古代教会史を専門とする英国を代表する教父研究者である。またメソジスト教会の牧師としても働いてきた。発達障害を抱えたお子さんについての著書もあり、決して研究室に閉じこもるだけの研究者ではない。今日教父研究は専門化し、同時代を扱っていても対象とする教父が異なれば研究状況が見えなくなるところ、この本は基礎的で信頼できる情報を提供してくれる。

教会史の父エウセビオスからはじまり、エウセビオスに続く教会史家が扱われる。エウセビオスは三世紀から四世紀をまたぐ教父であり、ニカイア公会議に出席したが、その教会史はコンスタンティヌス帝のところまでとなる。後継作はソクラテス、ソゾメノス、テオドレトスなどが著している（第一章）。そしてニカイアの立役者アタナシオスへと進み（第二章）、第三章は「信仰の英雄たち」と題し

て修道に専念した砂漠の師父たちの著作が扱われる。ここでアントニオスの後継者マカリオスも扱うが、偽マカリオス文書を含めて論じられるので、「祈祷派」と称されるマッシリウス派や聖書、聖霊の問題も詳論される。また「マカリオスがジョン・ウエスレーと同じ多くのテキストを用いていることは驚きである」と注記され（注295）、メソジストの背景をもつ著者ならではの視点も散見される。ここで砂漠の修道士たちを論じるところは本書の特徴であって、教父という点、そもそもは教理上の関心から論じられることが多く見られたが、ここでは信仰に生きた人びとが詳述されているのである。

第四章ではカッパドキア教父を論じ、第五章は「時代の特質——四世紀後半の対照的な人々」と題してシリアのエ

フライム、エルサレムのキュリロス、エピファニオスやヨアンネス・クリュソストモス、エメサのネメシオス、キュレネのシユネシオスを取り上げる。最後第六章ではキリスト論論争に関わるアポリナリオス、ネストリオス、アレクサンドリアのキュリロス等が扱われる。

本書ではラテン教父が取り上げられていないのでレオ一世やアウグスティヌスなどは登場しない。それでも全体で七〇〇頁超となっていて、激動の時代を生きたギリシア教父たちについて申し分のない叙述が展開されている。翻訳のための多大のご苦勞に頭を下げつつ、本書を通して日本においてもこの時代を生きた人びとへの理解が深まることを期待したい。

（どい・けんじ＝関西学院大学神学部教授
A5判・七二二頁・定価八四七〇円・教文館）

信仰の旅路 伝道メッセージ集

小島誠志



四国の地で、日本基督教団で、長年伝道に尽くした熟練牧師のメッセージ集。反撥されても風雨について前進する小舟のように、ひたむきに聖書を語り続けてきた著者の珠玉のメッセージ22編を収録。
四六判 並製・200頁・定価2640円

信仰生活ガイド《第3期／第1回配本》 越川弘英 編 教会、その破れと再生



『信徒の友』記事を書籍化する、信仰生活入門シリーズ第3期。人間的な争いといった「破れ」を経験した教会はどのような道筋で再生するのだろうか。
四六判 並製・128頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

あらわれ出る聖性

〈評者〉島蘭 進



ゴッホの宇宙
正田倫顕著



プロテスタントの牧師の息子だったゴッホ（一八五三—

九〇）は一六歳以後、画商として働くなどした後、聖書を熱心に読みふけり牧師になろうとしたが挫折し、二七歳でようやく画家になる決意をする。不遇のまま三六歳になる頃から精神病院で多くの時を過ごすに至り、自らいのちを絶ったのは退院して二ヶ月余り後のことだ。この一〇年間に描いた作品は後世の人々の心を揺さぶり、あるいは深い慰めをもたらすものとなった。

二〇一七年刊行の『ゴッホと〈聖なるもの〉』（新教出版社）でゴッホの絵画作品をキリスト教信仰との関わりから読み解いた著者は、本書ではキリスト教の枠を超えた人類史的な宗教性の現れとしてゴッホ絵画を捉えようとしている。美術史研究の蓄積を十分に踏まえた上で丁寧な絵画作品を読み取りつつ、「哲学や思想、宗教人間学の視座から

見据える」（九頁）という野心的な試みである。

本書は三章から構成されており、それぞれの章は焦点を当てられた作品をめぐる濃密な論が展開されている。第一章「《馬鈴薯を食べる人たち》——存在の大地」では、一八八五年にベルギーのニューネンで描かれた食卓を囲む五人の農民を図柄とする作品が主題だ。著者は「この絵画では大地に支えられたいのちが前面に出てきている」とし、それを「大地性」とよぶ（四五頁）。この作品は、生きとし生けるものを根底から支える大地性の顕現を描いたものだという。

第二章「ゴッホの《ひまわり》」では、一八八八年に南仏のアルルで描かれた卓上の花瓶にいけられた多くのひまわりの花を描いた作品に焦点が当てられている。ゴッホはアルルにゴーギャンらの画家仲間を招き、理想的な共同体

を作ろうと希望に燃えていた。実際は自ら耳を切り落とし、ゴーギャンは短期でアルルを去り、ゴッホは精神病院に入るようになった。その前の段階に光あふれるひまわりの絵画をいくつも描いていた。福音書がソロモンの栄華も及ばないとした草花の輝きがそこにある。「実際、ひまわりは画面に満ちる光と一体となって、美しく装われている。……ただあるがままにある。……その姿が名状しがたいほどに神々しく、光輝にあふれている」(二〇〇頁)とある。

第三章「《星月夜》の宇宙」では、亡くなるおよそ一年前の一八八九年六月にアルルからさほど遠くないサン・レミで描かれた《星月夜》とその前後の夜空や糸杉を描いた作品や自画像を論じている。糸杉は墓と連想されるものだが、教会の尖塔に代わり天に伸びてゆく生命力でもある。

ここでは、「宇宙と自己」の境界が取り払われ、「生と死の境界も越えていくような境地が描かれており、「最も救いのない状況にあったとき、不思議なことに救いの光が射しこんできたのではないか」(一七二頁)という。

ゴッホ絵画を人類共通の宗教的な基盤と結びつけて捉えるという視点が、ゴッホの絵に私たちが魅入られる理由を示唆してくれる。ゴッホの作品は画家の意図を超えて、そのような次元に届いているとする。宗教から遠いと感じがちな現代社会に生きる、私たち自身の内奥にある宗教的なものを見直すよう促す書物でもある。

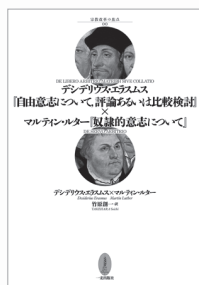
(しまぞの・すすむ 東京大学名誉教授)
(A5判・二三二頁＋口絵四八頁・定価三〇八〇円・教文館)



『自由意志について、評論あるいは比較検討』× 『奴隸的意志について』

宗教改革の争点 00

エラスムス × ルター
竹原創・一*訳・解題



宗教改革によって提起された様々な論争主題のうち「自由意志論」を、エラスムスは「解き明かし難い謎」「ただ一つの教義」とよび、ルターは「要点」「基軸」「急所」とよんでいる。ルターは本書をいつまでも残したい自分の著作の一つに挙げている。

A5判・上製本

定価 9,580 [本体 8,800 + 税] 円

ISBN978-4-86325-166-3



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10

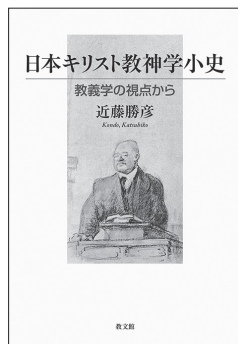
TEL (011) 578-5888

<http://www.ichibaku.co.jp>

携帯 mobile.ichibaku.co.jp

日本伝道の閉塞感を 打ち破る教義学的思索

〈評者〉 森島 豊



日本キリスト教神学
小史
教義学の視点から
近藤勝彦著



こんなに面白い本に出会えることは、人生でもそう多くはありません。ページを閉じた後も余韻が長く心に残ります。なぜこれほど惹きつけられたのか、その理由を私なりにたどってみたいと思います。

本書が焦点を当てるのは、日本におけるキリスト教神学の歴史、とりわけ「教義学」です。それは「教会の伝道」のために行われる神学の営みです。ゆえに本書は、福音を伝えようとする人に信仰の原点を思い起こさせ、課題解決への道筋を示し、深い励ましと希望を与えてくれます。

注目すべきは、大著『キリスト教教義学』上下巻を著した当代屈指の著者が、日本の神学史に足跡を残した五人の神学者に光を当てている点です。「神学小史」として厳選されたのは、植村正久、高倉徳太郎、熊野義孝、北森嘉蔵、大木英夫です。次の言葉は、この五名を選んだ理由の一つ

と思われます。

「立場をまったく異にする者との対論は、神学的探求の歩みを深化させるものではない。しかし類似の関心や同じ神学姿勢にある先輩や同僚との対論は、自らの神学的探求を深め、自己の神学的主張をさらに正確化させるであろう」（七三―七四頁）。

五人はいずれも著者が敬意を抱く先輩であり、同じ神学的関心を共有しています。しかし、称賛に終始することなく、「神を神とする」神学を深めるために真摯な対話を重ね、ときには手厳しい批判もためらいません。その緊張感が、本書に独自の迫力と読み応えを与えています。

読み進めるうちに、私自身、自らの神学理解の甘さを思い知らされました。たとえば「神の痛み」を主題とした北森嘉蔵について、著者はモルトマンとの相違点を明確にし、

贖罪論や神義論を含まずに十字架から神の愛の認識へと至る北森神学の構造と欠点を緻密に描きます。その厳密さと深い洞察力に圧倒され、神学するとはこういうことかと教えられました。

著者が示すのは、相手を一刀打尽に斬り捨てるのではなく、その神学を深く理解しようとする姿勢です。北森がエレミヤ書から受けた「神の痛み」の発見の驚きを、日本の心性から説明しようとする他者の試みに対しては、『神の痛みの神学』の驚きの衝撃力をむしろ日本的に一般化する方向で弱めて解釈することになる」(一五六頁)と指摘します。北森を十分に理解したうえで、神学の理解をより深めるために批判し、考察を重ねています。

さらに魅力的なのは、著者が「私はどう考えているかと

神学ダイジェスト138号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2025年6月発行
A5版128頁
定価638円(税込)

特集 カトリック教会における男性性

巻頭言 教会における公正な人

聖職者の独身制と性

男性性を再構築する神学

教会の中の男性性と性虐待

男性のための霊的同伴

司祭職を廃止せよ

プーチンとロシア正教会のイデオロギー

日本の教会の女性感覚と男女協働

ルカ福音書のたとえ話における内的独白

酒井 陽介

Ｌ・ボブ

H・アンダーソン

J・H・ルビオ

D・ピソン

J・キャロル

N・デニセンコ

石川 治子

P・セル

上智大学神学会

神学ダイジェスト編集委員会

東京都練馬区上石神井4-32-11

〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349

E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

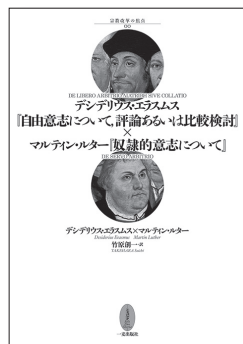
言えば」(一二五頁)と率直に述べ、自らの立場を明確にしていることです。多くの日本の神学者が依拠した「場の論理」や西田幾多郎の影響についても、「私自身は、キリスト教神学、とりわけ教義学の思惟を西田哲学の用語で表現しようとは思いません」(一二八頁)と断言し、その理由を説得力ある論証で示します。結果として本書は、指摘ばかりで結局どうしたらよいのか分からなくなるような議論には終わらず、進むべき道筋をしっかりと提示しています。読み進めるほど近藤神学の核心に迫る興味が湧き、大著『キリスト教教義学』の入門書としても最適です。

そして現在、閉塞感の中でもがいている日本の教会にとって、本書は迷いに行き詰まりを打ち破るための最良の一冊です。(もししま・ゆたか 青山学院大学教授・大学宗教主任

(四六判・二一八頁・定価二四二〇円・教文館)

原典を讀んでこそ 得られるもの

〔評者〕 木村あすか



宗教改革の争点00

デズデリウス・エラスムス

『自由意志について、評論ある
いは比較検討』×マルティン・
ルター『奴隸的意志について』

エラスムス×ルター著

竹原創一訳・解題



コップの中に水が半分入っている状態を見て「半分しかない」と思うか「半分もある」と思うかで楽観性をはかる心理テストがある。今から五百年前のヨーロッパで「救済において自由意志がどのような役割を果たしているのか」「自由意志はあるのか、ないのか」という論争が行われた。ローマ教皇庁の立場を代表するエラスムスと、後の教会分裂につながる独自の立場を確立しつつあったルターの著作による議論である。「自由意志」と「奴隸意志」と聞くと、自由な方が良いと思われるかもしれない。日常的には「人間が自分の選択や行動を自律的に決定できる能力」を指すことが多いが、本論争で問題となるのは「神から与えられた善悪を選ぶ力」である。本書解題四三七頁では「両者共人間の意志は本性上自由（自己決定）であることを承認しているが、〈永遠の救い〉という神的事柄の選択において

も、人間の意志が自由に働くかが争われている」「それゆえ人間の意志が〈奴隸的〉であるというのは、人間の意識の問題ではなく、神との関係の問題である」と解説される。四四〇頁の「ここでルターにおいて〈奴隸〉は、悪い意味でなく、むしろ神の〈王的自由〉を分け持つ〈仕える者〉という、よい意味で言われる」も重要である。

二人は聖書の明瞭性、自由意志の定義、論争方法としての「主張」、神と人間の「協働」「功績応報論」の可否について、聖書に基づいて議論した。現代でもこの論争に関する研究は続いており、どちらかを正解とするのではなく、両者の主張のそれぞれに学ぶことができる。

古典期と異なる「初期近世ラテン語」で書かれた原著を日本語に訳した本書は、自由意志論争五〇〇周年記念刊行物として大きな意義を持つ。訳注を見れば分かるように、

先行する山内宣氏の訳業に大きな敬意を払いながら、訳の欠落した部分等を補った完訳版である。ラテン語原文で読みたい場合も、底本の頁番号が付されているので該当部分を探しやすい。

訳者は立教大学などで教会史の講義、宗教改革に関するゼミ、ラテン語の演習などを担当された。著書として『ルターの詩編』（知泉書館）、訳書としてH・J・イーヴァントの『ルターの信仰論』（日本キリスト教団出版局）とルターの『第2回詩編講義』（リトン）がある。本書のような大部の翻訳を成し遂げられるまでに、どれほどの準備、研究、研鑽、検討、逡巡と決断が必要であったかと思う。これは日本語読者への良き贈物である。

四五五頁に及ぶ本書を通読するには、相応の時間と労力を要する。現代の書籍とは異なり章や目次がないため、慣れるまでは多少戸惑うかもしれない。巻末に「エラスムスとルターの自由意志論争における一致と相違」と人名・事項・地名索引があり、助けとなる。何らかの機会に、引用聖書索引が加えられれば大変ありがたいと思う。また本文は、目に優しく読みやすい大きさの活字である。

自由意志論争についてチャットGPTに聞けば、答えはすぐに出てくるだろう。教会史の本にも要点が書かれてい

る。しかし原典を読んでこそ得られる刺激や学びがある。ルターの繰り返しに、先程も書いてあったと思うかもしれない。激しい言葉遣いや人間の罪深さに対する、底の底までをえぐるような洞察に圧倒される。エラスムスが描いた、無力な幼子が父親の助けを借りながら歩み、ついにはりんごを手にする様子は忘れがたい。しかし彼の争いを避ける姿勢は、一種の逃げに見えもする。彼らの議論は、それぞれの枠組みにおいて一貫性を持つが、突っ込みを入れる余地は大いにあり、合わせ鏡のように一緒に読むことでその深みをより良く味わえる。

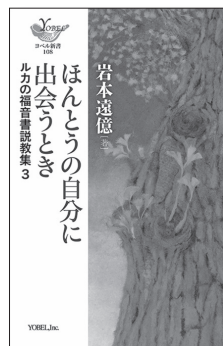
人間に対して悲観的になっているとき、罪に打ちひしがれているときは、ルターに軍配を上げたくなる。何かに挑戦し成し遂げたとき、教育に携わる際には、エラスムスに心を惹かれるだろう。人間は常に揺れ動く有限な存在である。本書を読み込むと、読者はこの論争について知るだけでなく、必然的に自らの神観、人間観、信仰や経験、心理状態などを顧みることになるだろう。研究者だけでなく、自由意志について考えたい方々に特に勧めたい一冊である。（きむら・あすか）テュービンゲン大学プロテスタント神学部博士

課程、日本キリスト教団井草教会会員

（A5判・四六〇頁・定価九六八〇円・一麦出版社）

生活に根差した勝利説の信仰 を読むことができる説教集

〈評者〉久保木聡



ほんとうの自分に
出会うとき
ルカの福音書説教集 3
岩本遠億著



こんなにわかりやすく、かつ時代背景を適切に述べ、神の愛を染み渡るように伝える説教が可能なのか！それが本説教集を読んだの率直な感想です。本書は、著者の仕えるキリストの平和教会における、ルカの福音書からの連続説教を書籍化したものの第三弾です。

著者はオーストラリア国立大学博士課程を修了した言語学博士であり、神田外語大学大学院の教授でもある方です。その知見から説教の中では語用論に基づく聖書解釈がしばしば出てきます。著者の言葉で言うなら「言葉の字義的な意味と、文脈の中で意味していることの上でズレを研究するのが語用論です。」(74頁)とのこと。「イエス様は語用論の達人です。皮肉も飛ばされます。ですから、文字通りの意味ではなく、そこに隠された意味や、その言葉によって行われている行為を読み解いていかなければなりません」

ん。」(176頁)とも述べています。辞書が教えるその単語の意味は重要ですが、文脈によって意味が変わっていくのを踏まえることは、わたしたちの日常会話でも、また聖書を読む上でも必要なことは言うまでもありません。著者が丁寧に文脈を追うことで、言葉の裏に隠されたものを明らかにし、人物像を立体的に描きながら、聖書を読み解いていくことで次々に目が開かれ、嬉しい驚きに包まれました。

以前、贖いの理解について、著者とSNSでやりとりしたことがあり、刑罰代償説(キリストは罪人の身代わりとなつて十字架にかかって死に贖いを成し遂げたという説)に基づいた説教はしたことがないという主旨の回答を拝見したことがあります。確かに本書の説教には刑罰代償説に基づいた説教はありません。教父たちの贖い理解と言われる勝利説に近い贖い理解と思われる「死と悪魔に勝利する

王としてのキリスト」を述べる説教が繰り返し語られます。個人的には、ここまで勝利説で守備一貫した説教集を自覚的に読むのは初めてのことでした。神学的な知的理解で完結せず、生活に根差した勝利説の信仰を読むことができるのも本書の特徴と言えるでしょう。読者によってこの件は賛否もあるでしょうが、読まずに批判しないでほしいと願います。まずこの説教集を読み、味わってほしいのです。

以下の言葉に著者の正直さと配慮を感じました。「私たちクリスチャンも「これが聖書の基準と考えること」をできるだけ多くの人に知ってもらって、マジヨリティを形成しようとしています。それは、自然なことですし、当然です。それがなければ、教会を形成することはできません。しかし、それによってイエス様が癒し、赦し、祝福していらっしゃる人を排除してしまうということが起こり得るということも心に覚えたいと思います。」(33頁) 教会形成においてマジヨリティがマイノリティを排除し得る危険を自覚し、正直に伝えているのです。そこに、排除する者が起こらないようにしようとする配慮があります。それは著者のまなざしでもあります。イエス様のまなざしと配慮に倣おうとする著者のひたむきな信仰姿勢とも言えます。本書全体にあるのは、そのような神の大きな愛と排除される者が起

こらないようにと切に願う細やかな配慮とまなざしです。本書の表紙は和紙ちぎり絵作家である森住ゆき氏の作品です。本書に収録される説教を入念に読んで作った作品が表紙となりました。銀杏の幹から新芽がいくつも芽生えています。本書を読むわたしばかりでなく、森住氏にとっても、本書を通して自分の中から新芽がいくつも芽生えるかのようないきいきとした感動があつたのではないのでしょうか。

本書の説教を多くの人に触れてほしいと願います。一人で読むのもいいでしょうし、「福音書を読んでみたけど、よくわからない」というノン・クリスチャンにプレゼントしてみてもいいでしょう。無牧教会や牧師が休暇を取得した際の礼拝説教で、本書が朗読されるのも良いでしょう。読書会を開いて一篇一篇の説教を順に味読し、感想を分かち合ってほしいとも思います。そうして、本書を読んで、自分から芽生える新芽に出会い、互いにその恵みを分かち合ってほしい。そう願っています。

(くぼき・さとし) 日本ナザレン教団大阪桃谷教会牧師
(新書判・二一六頁、カラー口絵一丁・定価一三三〇円・ヨベル)

学的に裏付けられた福音書テキスト研究
から見えてくる原始キリスト教の風景

〈評者〉 新免 貢



福音書の隠れた難所
大貫 隆著



イエスはモノを書かなかった。われわれはイエスを直接知らない。イエスについて伝えられていることを知っているにすぎない。そういう意味においては、口伝、物語資料、言葉資料（Ｑ）など様々な資料を駆使した正典福音書の著者たちのイエス像も、「昔のイエスはこう言った」と思いこみたい現代読者のイエス像も受け売りであり、セコハンの限界を免れない。しかも、書き記された仕方で残存するイエスの種々の言葉は、Ｍ・デイベリウスなどがすでに気付いていたように、そもそも起源ははっきりしない。それゆえ、「福音書の難所」は、本書で検討されている諸箇所に限らないであろう。

——二章では、Ｑ資料中の「神の国」発言（ルカ一七章21節）——「神の国は『あなたがたの内面に（エントス・ヒューモーン）』（グノーシス主義文書トマス福音書三、

一―三も参照）——、並びに、「禿鷲」発言（同一七章37節）——「体のあるところはどこでも、そこには禿鷲たちも集まるだろう」——が、「大旅行記」の一部をなす困い込み記事（一七章20―37節）の前後関係を考慮に入れ、マタイ二四章23節以下の文脈とも比較しながら分析される。その結果、前者はファリサイ派の偽善的な内面に対する皮肉として、及び、後者は「人の子」来臨の宇宙大の可視的出来事に関する弟子たちへの教示として、ルカの編集作業に帰せられる。また、イエスの「禿鷲」発言の類似例がアラム語ユダヤ社会に共有されていたプルタルコス『倫理論集』（九一―八〇）やルクレティウス『事物の本性について』（IV六七九―六八〇）の博物学的知識に裏付けられた格言に見出され、伝承史的に関連付けられる。こうして、「神の国ネットワーク」と著者自身が名づけるイエスの思想的原風景の



日本聖書協会

God's Word — Life for the World

N・T・ライトによる子どもから
大人まで楽しめる聖書物語

わたしの 聖書物語

神さまの大いなる計画



N・T・ライト：著

ヘレナ・ペレス・ガルシア：画
標珠実：訳

天地265×左右215mm

厚さ24mm 296頁

税込価格 **3,960** (3,600+税) 円

ISBN978-4-8202-9288-3

英国の著名な神学者 N・T・ライトが贈る今までにない聖書物語。創世記からヨハネの黙示録までのそれぞれの小さな物語がひとつの大きな物語——すべてを正しい姿にもとし、天と地をひとつにするという神さまの大いなる計画——を織りなしています。



お求めは全国のキリスト教専門書店
お問合せ ☎03(3567)1987 (頒布部)
<https://www.bible.or.jp>

中に加えられる。さらに、後代に影響を及ぼし続けたルカの歴史神学の構想——「人の子」到来までの「日々（ヘーメライ）」において様々な出来事が起こる——が、最後の審判に伴う災難の数々が襲う薄気味悪さを漂わせたマタイの対応箇所（二四章28節）とも比較しつつ説明される。これに加えて、ステファノ殉教事件をイエスの神殿倒壊予言の再活性化の結果とするルカの筆遣いが中途半端に終わったと著者は指摘する。私見によれば、ルカ文書よりも後代の非正典伝承（ペトロ福音書七章26節）がここで補足されるべきであろう。というのは、弟子集団は神殿放火未遂の責任を帰せられ、身を隠し、怯えていた。「人の子」再臨のアクチュアリティは著作家ルカにとっては失われたものであっても、身の危険を現実を感じる生身の弟子集団の間で

はイエスの鮮明な神殿破壊予言のアクチュアリティは失われていなかったことが窺えるからである。

続く第三章は、タルグム訳との関連を多くの学者たちによつて指摘されてきた「メーポテ」（マルコ四章12節）の使用例を広範に取り上げ、これを接続詞ではなく、「しかし」かもしれない」という肯定的可能性を表す副詞と解する。

本書全体の約四割も占める第四章は、「ナゾーライオス」（マタイ二二3節）、「ナザレーノス」（マルコ一章24節）、「ノーツリー・イエス」——バビロニア・タルムードはイエスを貶める対抗物語を提示——、「ナーツォライヤー」（マнда教徒の自己呼称）をめぐるユダヤ主義キリスト教の系譜を素描する。こういう掘り起こしの作業は、ユダヤ教周縁の「遵守派」の把握、並びに、それと関係するイエス後の

キリスト教の諸源流の宗教史的解明に接続する重要な試みでもある。イエスゆかりの「ナザレ」という土地名は、旧約聖書アラム語訳にもタルムードにも言及例はなく、そこには一筋縄では行かない複雑なテクスト問題が絡んでいることを本章は明かにしている。

聖餐式の原理的あり方―「キリストの肉を食べ、血を飲む」ことによって他者の苦しみ为一体となって共感できる人間への変容―をヨハネ六章51b―58節に見出す第五章は、シモーン・ヴェイユの犠牲観念にも言及し、社会下層を食い物にする人間のあり方を問題にする。

付録二編は、今の立ち位置にたどり着いた著者自身が学恩を受けた荒井猷氏と佐竹明氏に対する学術的追悼文である。著者は両氏の衣鉢を受け継ぐにふさわしい学者である。

最後に、先行研究としての欧米文献や邦語文献、及び、ギリシア・ローマの著作家たち（アリストテレス、セネカ、大プリニウスなど）の作品群、七十人訳、ユダヤ教文書（死海文書、フィロン、ヨセフス、ラビ文献など）、ナゲ・ハマディ文書、マンダ教文書（ハラン・ガワイタ、ギンザー・ラバー）などからの関連原典資料の引用と分析は、本書を厳密な史料批判と文献批判の良き研究モデルの水準

に引き上げている。本書は、後世に残る基本研究として、聖書学を志す若き学徒や関心ある他分野の専門家諸氏に読まれ続けること請け合いである。率直に言えば、本書の詳細な分析を読みこなすためには、ギリシア語・ラテン語・ヘブライ語などに関する基礎的素養が求められる。それが本書の「難所」でもあろう。しかし何にもまして、「イエスは何を考えていたのかを実際に知りたい」という強い動機と情熱が読者側に求められる。

世界水準の聖書学的知見に裏付けられた本書の各論考は、大学院ゼミ、教区・教会単位の信徒研修会もしくは牧師有志の継続学習会などの共同の場において、難所だらけの福音書テクストを再発見し、巻末索引を有効活用しながら忍耐強く学び直すための必読学術文献としての使用に十分に耐え得るであらう。

（しんめん・みつぐ＝宮城学院女子大学名誉教授、初期キリスト教思想）

（四六判・四一六頁・定価三〇八〇円・ヨベル）

福音書の

隠れた

著 隆 貫 大
大 難 所四六判・四一六頁・
三〇八〇円

旅に難所はつきもの。超えてこそ見える絶景！
イエスはなぜ禿鷲と死体を語るのか。ナザラ
人とは何者か。自身を「食い物」にせよとの
人肉嗜食発言（ヨハネ福音書）はどう解すべ
ば良いか……。福音書に立ちはだかる5つの
「難所」を取り上げ、研究者生涯を傾注して
取り組んできた成
果が結晶！

付録 荒井献の学術
研究―その功績と
遺された課題

鈴木智久著 ヘーゲル宗教哲学の提示するもの 四六判・三二八頁・
二二〇〇円

現代において信仰はいかに可能か



カトリックサレジウス司教
阿部仲麻呂氏推薦！ヘーゲルと自身との親しさを
深く看取し、ヘーゲルその人にありのままを語らせ
る！「不幸な意識」を乗り越えた著者の迫真の生き
方から絞り出された言葉の数々によって「相手を慈愛
深く支えようとする配慮に満ちた神からの励まし」
が読者の心の底にも確かに響く！

竹田純郎著

A5判・二一六頁・二二〇〇円

技術時代における宗教、キリスト教

現代の技術時代という菌車の中で、キリスト教はそれに抗する道
を開けるのか。武田泰淳、ヴェイユ、ボンヘッファーからルオー
の「キリストと漁夫たち」に至る思索から鮮やかに描き出す。



小高夏期自由大学事務局編著「飯島信・小喜修也」
苦難の日々を心に刻み、
再生へ向かって歩む

明日は必ず来る 原発被災地 小高 新書判・三三六頁
一六五〇円

苦難の日々を心に刻み、再生へ向かって歩む
明日は必ず来る 原発被災地 小高 新書判・三三六頁
一六五〇円

原発被災後、〈新しい日常〉を13年やってきたこの町にな
ぜ人々は集まってくるのか。小高にはいったい何があるの
か。〈小〉さくても志は〈高〉く、それが小高。パネルデ
スカッション、トークセッション、座談会で小高の今と未来
を語り尽くした夏期自由大学、その熱気を紙上に再現。

金子晴勇キリスト教思想史の例話集 全6巻

III「共生」の神秘 新書判・二五六頁
一五四〇円

キリスト教思想史を学ぶ人に！

I 物語集 好評既刊
新書判・三四四頁・一五四〇円II 命題集 好評既刊
新書判・三三二頁・一五四〇円「ヨーロッパ思想史」
金子晴勇責任編集ドイツ敬虔主義
著作集 全10巻 四六判上製

- 第1巻 シュベナー「敬虔なる願望」佐藤貴史 金子晴勇訳
- 第2巻 シュベナー「新しい人間」山下和也訳 四〇〇頁・二〇八〇円
- 第3巻 シュベナー「再生」金子晴勇訳
- 第4巻 フランケ「回心と開始と継続」菱刈晃夫訳 矢吹配本予定
- 第5巻 ベンゲル「ライオン」と歩んだ道と言葉 若松功一 郎訳
- 第6巻 ツインツェンドルフ「福音的真理」金子晴勇訳 矢吹配本予定
- 第7巻 エーティンガー「自伝」喜多村得也訳 最新刊 三三八頁・二二〇〇円
- 第8巻 エーティンガー「聖なる哲学」喜多村得也訳 二八八頁・二二〇〇円
- 第9巻 テルステーゲン「真理の道」金子晴勇訳
- 第10巻 ドイツ敬虔主義の研究

国期的著作集 話題！

■ヨベル

意味は待つことにある——アドベントのころ

ポーラ・グッダー著、中原康貴訳

教会暦に刻まれた〈アドベントⅡ待降節〉という待ち望みの期間を、聖書の登場人物たちの生き様によつて辿りなおす。過去を待つ・現在を待つ・そして未来を待つという、人間に備えられている多層的な資質を呼び覚ましてくれる最良のアドベント読本。続編も編集集中（「私を遣わしてくだい——レントのころ」）。

四六判・168頁・定価1870円

どうすれば救せるようになるのか

——52週の旅路

クリス&ジェイミー・ベイリー著、田尻潤子訳

分析的でありながら思いやりのあるアプローチで、読者に「救し」にじっくり向き合う方法を指南するガイドブック。実際のケースが具体例として示されているので、読者が自分の状況に当てはめて考えやすくなっています。

四六判・272頁・定価1980円

■日本キリスト教団出版局

みんなの説教入門

小泉 健著

「すべてのキリスト者が説教することへと召されている」と語る説教学者による、牧師も信徒も、「みんな」のための説教ガイド。説教者の霊性を詳述するのに要注目。

A5判・152頁・定価1980円

INFORMATION

近刊情報

宮本久雄著作選集1

聖書——旅する神のダーバル（言即事）と共に

宮本久雄著

創世記、ヨブ記、ホセア書、福音書の譬え話、ヨハネ福音書、パウロらを取り上げ、聖書に広がる言語空間に実存的に迫る。

A5判・288頁（予定）・定価4620円

聖書通読31

——神の救いをたどる旅

石田 学著

創世記冒頭の天地創造から、ヨハネ黙示録の最後、「然り、私はすぐに来る」という主イエスの約束まで、旧新約聖書全体を31日でたどる。クリスマスプレゼントにもぴったり。

四六判・144頁・定価1760円

増補改訂

キリスト教入門 歴史・人物・文学

嶺重 淑著

世界と日本のキリスト教史、後世に多大な影響を及ぼしたキリスト者たち、内外のキリスト教文学作品。これだけは知っておきたい知識をコンパクトに紹介する。

A5判・112頁・予価1650円

80歳から創めるキリスト教（仮）

——よく生きよく老いよく学ぶ

上林順一郎著

『55歳からのキリスト教』（小島誠志）、『70歳からのキリス

ト教」(大澤秀夫)に続く年齢別キリスト教入門の第三弾。「キリストにある新しい生き方」を伝える。

四六判・128頁・定価1540円

こどもに語ろう聖書のおはなし160

久世そらち編

旧約聖書・新約聖書から幼稚園やCSでよく読まれる聖書の箇所を選び、こどもたちに向けたお話し160編を収録する。

B5判・88頁(予定)・定価2090円

■新教出版社

ディートリヒ・ボンヘッファー

抵抗に生きた神学者

クリステイアーネ・ティーツ著、橋本祐樹訳

ボンヘッファーの神学は彼の伝記的な背景と切り離して理解することはできない。本書はその生涯を簡潔の確に叙述することを通して、彼の思想が深化する過程と神学思想の核心を鮮やかに浮かび上がらせる。著者はマインツ大学で教鞭を執り、現在はヘッセン・ナッサウ州教会監督。原著初版は二〇一三年、本書は二〇二四年の第三版を底本とする。

四六判・230頁・予価2500円

ツインツェンドルフ——ドイツ敬虔主義の祖(仮題)

エーリヒ・バイロイター著、梅田與四男訳

ドイツ敬虔主義の源流に当たるツインツェンドルフ伯爵。本書は、ツインツェンドルフ研究の権威であるバイロイターが口口口双書のために書き下ろした評伝の決定版。ツイン

INFORMATION

近刊情報

ツェンドルフ本人の著作から豊富な引用を行うと同時に、当時を示す数多くの図版を挿入して理解を助ける。

四六判・300頁・予価2800円

■教文館

イスラエル十二部族の制度

M・ノート著、山吉智久訳

若きノートがアンフィクテオニー仮説を確立し、20世紀の旧約聖書学に大きな影響を与えた古典的名著をついに翻訳刊行! 仮説の発展をたどる研究史を付した聖書学の必読書。

四六判・278頁・定価2970円

ウエストミンスター信仰規準

——日本キリスト改革派教会公認訳

日本キリスト改革派教会訳

「穏健カルヴァン主義」に立ち、「契約神学」を神学的枠組みとして作成された「ウエストミンスター信仰告白」と、それに基づく教理教育のために編まれた「大教理問答」と「小教理問答」の最新の翻訳!

四六判・260頁・定価2420円

活けるキリストの現実

——キリスト教神学講演・論文集

近藤勝彦著

日本を代表する神学者として知られる著者の最新の講演・論文集。最終章「『日本基督教団信仰告白』を神学する」は必読。

A5判・240頁・定価3300円

書店名	郵便番号	住 所	電 話	フ ァ ッ ク ス	URL	メ ー ル	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマヲ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新富2-32 千葉クリスチアンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimdo.com/	taisindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新橋区東馬場2-23-18N/A/Cビル2F(通称専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区口1-44-4栄園ロビルB1新内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.higote.nag.jp/yokohamacs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須1-16日本キリスト教団東海教会内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都市北区錦町5-25日本基督教団平野教会(外販専門)	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-jps@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌鳥町2-87 チャペルこひつ2F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-jps@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	552-0003	大阪市港区難波2-18 港ルナテル教会1F	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacabs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖燈社)	591-8044	大阪府堺市北区长尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区殿町45-12 神戸駅前ATビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ瀬町古庄大道ノ西3	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万年町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.godokan.jp/index.asp	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2025



主催 キリスト教出版販売協会

2024年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から全国のキリスト教書店員の投票により大賞が決定!

価格は10%税込

大賞決定



大賞

わたしの 聖書物語

神さまのたいなる計画

N・T・ライト 著

ヘレナ・ペレス・ガルシア 画

定価3,960円 日本聖書協会



受賞のことは

「わたしの聖書物語」がキリスト教書店大賞を受賞できましたこと、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本書を通じ、聖書の物語が一人でも多くの方に希望、力、そして救いを与えることを心より願っております。

一般財団法人 日本聖書協会

書店員の
コメント

沖縄キリスト教書店 川上直美さん

創世記からヨハネの黙示録までの140の物語を通して神様のたいなるご計画への理解が深まっていく聖書物語。子ども大人を問わずおすすめしたい1冊です。



第2位

聖書のお話を 子どもたちへ

小見のぞみ 著

書店員の
コメント

横浜キリスト教書店 高橋友彦さん
教会学校や幼稚園などのキリスト教教育に携わる方々への実践的な提案・手引きを平易な言葉で綴った良書。



定価1,540円

日本キリスト教団出版局



第3位

悲しみの向こう

希望の扉を開く言葉366

片柳弘史 著

書店員の
コメント

清光書店 阿部文子さん

その日その日に開いてみると、自分自身が悲しみにうちひしがれている先に光が見えてくるような書籍です。



定価990円

教文館

他のノミネート作品(タイトル50音順)

月曜日の復活

「説教」終えて
日が暮れて
塩谷直也 著

定価1,540円
日本キリスト教団出版局



違いがありつつ、 ひとつ

試論
「十全のイエス・
キリスト」へ
鈴木道也 著
定価3,080円
ヨベル



コミュニティで支える

“心の育ち”
being《存在》を
大切にすること
田中 哲 著
定価1,430円
いのちのこばと社



70歳からの キリスト教

聖書でたどる
人生の旅
大澤秀夫 著
定価1,540円
日本キリスト教団出版局



信仰生活ガイド

祈りの
レッスン
柳下明子 編

定価1,540円
日本キリスト教団出版局



不安と孤独の 処方箋

病の教訓、
聖書のヒント
石丸昌彦 著
定価2,640円
日本キリスト教団出版局



信仰生活ガイド

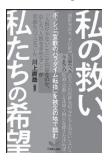
苦しみの
意味
柏木哲夫 編

定価1,540円
日本キリスト教団出版局



私の救い、私たちの希望

ボッシュ『宣教の
パラダイム転換』を
被災の地で読む
川上直哉 編著
定価1,980円
ヨベル



キリスト教書店大賞フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして
最新情報をGET!
QRコードで簡単アクセス! ➡



福音と世界

2025年11月号

特集Ⅱ科学技術とキリスト教

原子力、生命科学・医療、AI

寄稿者Ⅱアリストター・E・マクグラス、杉岡良彦、

濱崎雅孝、鬼頭葉子、波勢邦生、芦名定道

◆時評（高橋沙奈美）

◆連載 人物・日本キリス

ト教史（戒能信生）

／ほやき牧師のさすらい説

教録（富田正樹）

／異端者の世界航海（福岡揚）

証言としての旧約聖書（田島卓）

／新約釈義ル

カ福音書（山崎ランサム和彦）、他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社

TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

読書会に参加した。職場の同僚数人と、同じ一冊の本について感想を話し合う会だ。

今まで書店のイベントで翻訳者や編集者の話を聞いたり、一言感想を述べるような会には参加したことがあつたが、読者どうしでしっかり意見交換する形の読書会は、つい気おくれしてしまい遠ざかつていた。今回はもとも知っている人たちが開く会だというので、少し勇気を出して仲間に加えてもらった。

その会は課題の本以外にテーマや縛りはなく、自由に会話する形で進められたが、本を読んでいるときには思いもよらなかった方向へと話が広がっていき、小さな会ながら刺激的だった。「この本のこの部分をあなたはどう感じま

予告

本のひろば

2025年12月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）「父の書棚から」荒井仁（書評）日本カルヴァン学会編『カルヴァン研究第2号』、小井沼眞樹子著『ただそこに居なさい！』、C・A・エバハルト著『イエスの死の意味』、桜井健吾著『近代世界と宗教』、湊晶子著『あしたは必ず来る』、A・カイパー著『カルヴィニズム』他

したか」「私はこんなことを考えたけれど、あなたはどうかですか」。感想と問いかけを交わす中で、時には本から離れたところで話が盛り上がり、それはそれで楽しい。そうしているうちに誰かが別の本の話題を出し、また話は本に戻る。本の世界は繋がっているとつくづく実感した。

一人で本を読んでも、その本から他の本へと繋がっていくことはよくある。しかしそれは著者が同じとか設定やテーマが似ているとか、何か共通点を自分なりに見出して選んでいることが多い。他の人から自分の中にはない視点での感想を聞き、会話しているうちに、自分だけでは手に取らなかつたであろう本に行きつくことができるのは読書会ならではのかもしれない。読書会の良さを知るとともに、昨今のブームにも納得させられた体験だった。

（豊田）

宗教活動におけるマイクロアグレッション

キリスト教会の日常に潜む暴力と向き合う

10月17日

牧師・信徒の必読書

コデイ・J・サンダース、アンジェラ・ヤーバー 著／真下弥生 訳

マイクロアグレッションとは、日常の親密圏で生じる人種・ジェンダー・セクシュアリティなどにまつわる攻撃であり、社会に蔓延する偏見を無反省に再生するものから意識的な嫌がらせまで広範にわたる。「善意の人々」が集う教会でもそれは頻発する。本書は、誰もが安心できる愛の共同体として教会が自己変革していくための方途を模索する。

四六判・定価2970円

見知らぬ神の跡を辿って

川島重成 著

新約聖書とギリシア・ローマ世界

神とは誰か、人間とは何ものか……。この根源的な問いをめぐり、西洋

精神の二源流である聖書思想とギリシア・ローマ思想に耳を澄まし、両者の安易な調停ではなく、真摯かつ寛やかな対話を希求する18の講演とエッセイ。

10月25日

四六判・定価3300円



神学と社会理論

世俗的理性を超えて

現代の古典、

ジョン・ミルバンク 著／原田健二朗 訳

待望の邦訳！

ポスト・リベラル神学を主張する「ラディカル・オースドキシシー」の出発点。アングロカトリックの伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがあり、また現代思想との対論は極めて刺激的。2006年の第2版に基づく待望の邦訳。

A5判・定価9350円



イザヤ書註解Ⅱ 11-27章

ジャン・カルヴァン 著／堀江知己 訳

A5判・定価8470円

改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組み、その使信をキリスト中心に読み解こうとしているかが如実に伝わってくる。全5巻予定。



大反響

英雄視を排して素顔に迫る

マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

マシュー・ハケネス 著

穂田信子 訳

元Uボート艦長で一時はナチを支持した保守的牧師が、ヒトラーの教会政策に反発して強制収容所に囚われた。戦後は、ドイツの教会の罪責告白を主導し、また冷戦下には平和運動の旗手として活躍した。その激動の生涯を貫くものは何だったのか。アメリカの気鋭の歴史家が著した最新の評伝。

四六判・定価4400円

『2 キリスト教思想
—愛とケノーシスの間にて』 2025年12月予定

『3 エヒエロギア
—自らを超えゆく神の探究』 2026年2月予定